

上田市教育委員会 4 月定例会会議録

1 日 時

平成 22 年 4 月 19 日 (月)

午後 2 時 45 分から 3 時 50 分まで

2 場 所

上田市教育委員会 (やぐら下庁舎) 2 階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	生田千鶴子
委 員	春原 秀一
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

小市教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、原澤生涯学習課長、澤山人権同和教育政策幹、中部文化振興課長、細川体育課長、依田丸子地域教育事務所丸子学校教育係長、竹内社会教育課長、荒井真田地域教育事務所長、伊藤武石地域教育事務所長、手塚第一学校給食センター所長、坪田上田図書館長、浅野中央公民館長、土屋上野が丘公民館長

< 報告事項 >

1 平成21年度教育委員会重点目標実績報告について

資料1により中村学校教育課長、小野塚教育総務課長、中部文化振興課長、原澤生涯学習課長、細川体育課長説明

春原委員

2頁の、特別支援教育のところで「研修会で事例研究や意見交換を行う」とあるが、1月の校長会で行った沓掛先生の講演以外に何か実施したか。

中村学校教育課長

特別支援教育支援員については、支援員の会議を年2回開催しており、その中で情報交換や研修会等を行なっている。

春原委員

沓掛先生の講演についてであるが、校長先生方から何か感想はあったか。校長先生方が指導していく上で何が必要なのか、そういった予備調査のようなものを行い、狙いを定めた講演をいただくような関わり方が必要である。また、終わった後どうだったか等の詰めがあるといい。貴重な時間を使っての研修であるのでより効果の上がるものにしてほしい。

中村学校教育課長

1月の講演会は、校長先生方が対象であったので全体的な話だったが、特別支援教育支援員やコーディネーターを対象とした研修は、もっと具体的な研修内容としている。本年度の校長会研修については、校長会と教育委員会とですり合わせをしながら進めたい。

生田委員

2頁の「現状と問題点」の中に「子どもの視点に立った教育の推進」とあるが具体的にどういうことか。斉藤さんという東北地方の作家は、以前子どもになりきって小学校で1年間過ごしたそうである。そうしたことで子どもたちの視点に立ち、本当に子どもたちに必要なものが見えてきたということである。「子どもたちの視点に立った教育の推進」をするために、どのようにして必要な情報を得るのか。また、具体的な取組みを考えているようであれば教えてほしい。

特別支援についてであるが、学校訪問の際、特別支援教室を見させていただくと、本当に子どもたち一人ひとりのことを理解した上で支援している学校とそうでない学校があり温度差を感じた。年2回の研修が本当に現場で生かされている

のか教育委員会としてしっかり把握していく必要がある。充分理解を得られないまま年月が過ぎていくと悲しい問題も起こってくる。しっかりサポートする体制をとっていくべきである。

6頁左側の具体的な取組方法の「各地域ごとに異なっている体育施設の使用料や手続き等の統一に向け、準備を進めます。」とあり、期末報告を見ると「細部の見直しを行っております。」と1年経っても統一が成されていない。この理由は何か。

中村学校教育課長

の関係であるが、教育委員会では、これまで特別支援教育支援員や心の教室相談員を配置して相談支援を行ってきた。平成22年度については、これから予算化をするところであるが、カウンセリングマインドの研修会を学校の全職員を対象に実施したいと考えている。

次に の研修を行った後の対応であるが、特別支援教育支援員の研修会や意見交換会の中でお互い情報交換を行なっている。また各学校に特別支援教育コーディネーターが1名いて、その連絡会でも情報交換をしており学校間であまり開きがないように対応している。

細川体育課長

の料金統一の関係であるが、体育館、グラウンド等、種類別、規模別の料金設定についてはだいたいできている。しかし器具使用料や減免等については、まだ検討中であるため平成23年4月から統一したいと考えている。

生田委員

子どもの見える景色は子どもの視線まで低くしないと分からない。子どもの生の声を聞く機会を持った方がいい。松本の教育委員会でそれをやっていると聞いた。子どもの生の声を聞くことによって驚きや発見があるのではないか。PTAや保護者の方がどんな悩みを持ち、どんな問題を抱えているか直接聞く機会は有益だと思った。今は年1回であるがもっと回数を増やせばいい。

については、志を高くして市民のためになるように努めてほしい。

西田委員長

期首の具体的な取組方法、目標の内容、期末での目的の達成状況など、各部所で全課員がどれだけ共有しているか。

小野塚教育総務課長

各課によって取組みは多少違うが、教育総務課では目標設定についてある程度の骨格を皆で相談して決め、具体的な取組方法は各担当者と話しながら設定している。中間、期末についても担当者が一番良く知っているので話しながらまとめており、課員と共通認識の中で進めている。

春原委員

4 頁「期末報告」 中、「運営費補助から事業費補助に切り替え」とあるが、こうするとどんな意味の改善があるのか。

5 頁「期末報告」 中、指導者養成事業で 19 人受講したとあるがこれは多いのか少ないのか。また多くする手立てはどのようなことが考えられるか。

6 頁「期末報告」 中、「オヤジ改造倶楽部」は総合型地域スポーツクラブか。

中部文化振興課長

4 頁の補助金の関係であるが今までは定額で出していた。事業費補助になると例えば文化祭、講演会など実際に行った事業に対して補助することになる。補助額は下がったが団体の活動が増せば補助金は増える。

原澤生涯学習課長

5 頁の「指導者養成講座」は、定員 20 名で募集をした。この指導者養成講座は地域、個々の育成会で活動するリーダーを養成する視点であるので、広報のほか育成会に携わる人を対象に募集した。また中学生にも後輩の活動を助けるリーダーを養成する視点から中学校を通じても募集した。結果として 19 人であったが今後もこれくらいの人数を考えている。

細川体育課長

名前がユニークであるが中高年の方の健康づくりに貢献したいというもので、規約の目的の中にも年齢・性別に関係なく地域の方がスポーツ等をする中で地域間交流を活発に進めたいと謳っている。国から支援もいただいており総合型地域スポーツクラブの一つとして位置づけられている。

- 2 シリーズ文化講演会実施報告について
資料 2 により中部文化振興課長説明

質疑なし

3 行事共催等申請状況について

資料3 - 1 により中村学校教育課長説明

資料3 - 2 により原澤生涯学習課長説明

資料3 - 3 により中部文化振興課長説明

資料3 - 4 により細川体育課長説明

西田委員長

東京教育大学数学教育研究会の研究集会は例年あるのか。

中村学校教育課長

たまたま本年が上田で開催するというので毎年当市で行うものではない。

西田委員長

上小算数数学教育研究会も後援している。55回ということは全国を回っているのか。

中村学校教育課長

そうである。上小算数数学教育研究会も参加を呼び掛けている。

金子委員

二中と清明小が授業会場となっているが、こちらからお願いしたのか、学校が希望したのか。

中村学校教育課長

校長会を通してか直接か分からないが依頼があって引き受けたと思う。

西田委員長

算数数学は非常に興味深い。いろんな意味で刺激になりレベルが上がる基になればいい。

廣川教育参事

算数数学を専門にやっている先生方は遠くで開催してもかなり大勢参加しており、内容的にも深まった研究をしていると聞いている。各県単位で順に回っている。

4 上田市スポーツ振興審議会委員の委嘱について

資料4により細川体育課長説明

生田委員

校長先生が出席する会議が多いと言われており精査していく段階と思うが、敢えて校長先生を入れる意味は何か。

細川体育課長

スポーツ振興計画の中で学校スポーツに係わることも話し合いをお願いしており、そうした意味から校長先生に入ってもらっている。回数は絞っていきたい。

生田委員

校長先生を入れる意味を聞きたい。

細川体育課長

校長先生でなければいけないということはないが、いろんな種目を指導できる先生の中からということで校長会へお願いし選出していただいた。

生田委員

教育長に伺いたい。校長先生は多忙なので他の人というわけにいかないのか。

小山教育長

委員になれる方は中体連の役員をやられているのだと思う。中学校の意向をまとめ、スポーツ振興計画の中に反映するということになれば校長でないともまずいと思う。責任持って発言できない。

5 その他

資料公民館だよりにより浅野中央公民館長説明

質疑なし

資料明るい真田により荒井真田地域教育事務所長説明

質疑なし

西田委員長

以上で4月の定例教育委員会を終了する。